Petőfi Irodalmi Múzeum Könyvtárának
Szeptetter!
Tokió, 1991. jún. 6, a Simon Ivan 9-ik születésnapján.
Hukaya Sitoru, aki elkövette ezt a fordítást is valaki Eötvös kollégista is volt

ペテーフィ文学博物館
図書室に
1991年6月6日，長男
志開の9才の
誕生日に
深谷志寿

A LÓ MEG- ÉS A HAL MADARAK KIRÖPÜLNEK

KASSÁK LAJOS

馬は死に、小鳥は飛び出す

そのとき時間が“いなないた”、つまり鸚鵡のように羽を開けたのだ、だから赤い門が開いたのだ＊顔に黒いダイヤが埋め込まれていて、困り果てて子どもを３人連れていた僕の愛人と＊工場の煙突の下に座っていた＊明日は曲線だとは僕らには分かっていた＊ホ・ジュップ・ホ・ジュップ＊カシカ［カッシャークの姓から作った愛称］、行ってしまうのね、あたしは舞台の上とナードレル氏の描き散らかしものの中でひからびてしまうのねと言った＊そうだろう＊そうだろう＊主は美しき女性のことを忘れてしまわれるのだ＊もう半キリストの木彫り彫刻家がやって来た＊若くて恥ずかしいほどまっとうな匂いがしている＊明日はハンガリーの国境を超えるのだ＊そうだねえ、うん、そうだ＊そうだろう、そうだろう＊街が僕らの傍らを走り去って行った＊回りながらあっちこっちに行き、背伸びをした＊父親の下に曲がった麦わら帽子が雪ガラス上を薬局から三位一体像の所まで泳いで行って来るのが見えた＊親父は昔は僕が21になったらエールシェクウーイヴァール［現在スロヴァキア領ノヴェー・ザームキ市］の聖堂区教会の司祭になるものだと思い込んでいた＊ところがそれより10年も前にシュポルニ氏の修理工場で煙を食べていたのだ＊親父はほとんど家に寄りつかなくなっていた＊それから僕の素晴らしい将来をもビールに代えて飲んで、小便として出してしまった＊歳を取った掃除婦に惚れた＊髪の毛が抜けてジプシーとしか付き合わなくなった＊1907年のこと、木彫家とパリに歩いて行くつもりだった＊田舎町は水溜まりに浸かっていてアコーディオンを弾いていた＊おお、聖クリストフよ、わしはお前を庇護する羽を下ろしてしまおう、お前はもうわしの息子ではない＊１人の酔っぱらいが『アラニュ・オロスラーン　（金獅子）』ホテルの壁により掛かってワニのように大粒の涙をこぼした＊全てはおしまいだと分かった＊僕を赤い２本のレールが突き抜け塔では鐘をついていた＊鳩質は屋根の上でぐりぐり返しをしていた＊というか陽の車に乗ってギャロップしていたのだ＊フランシスコ修道会の鐘は歌っているかのようだった＊寝支度を整えている者は鉛棒の用意をしなさい＊時計は白いシェパードを誘惑している＊全てはおしまいだと分かった＊酒屋と小間物屋は店を閉めた＊ささ、子供が待ってるから家にお帰り＊車輪はもう逆には回らない＊人は乳歯を投げ捨

て、人生が自分の尻尾にかみついている虚無を見つめる＊虚無をだ、おお、ジラマーリ＊おお、ドスン、ドスン＊船は身重の女のように僕らと一緒にのろのろと進んで行き、後ろから誰かが舞台のそでを閉じた＊これが僕の人生最初の断ち切られた日だった＊僕の内部ではたいまつが揺らめき、底無しがあった＊パパッガールム＊おお、フミゴー＊パパッガールム＊岸辺では20羽ずつにかたまって赤銅色の鳥が鳴いていた＊木には縛り首にされた者達が揺れて、やはり鳴いていた＊ときどき水の底から暗い顔をした死体が僕らの方を眺めていた＊だが僕らは21歳だった＊木彫家は頚にみっともない薔薇色の毛がちぢれて生えていた＊ちなみに僕らはいい生活をしていた＊ただ僕らの胃袋の対角線＊いくらネジを回しても牛は何度も繰り返し、繰り返し刈株畑に乗り出した＊もう時には僕らは目を娘達の踝からそらすことができなくなっている＊そんなときはいつも僕の内側からシンバルが声を張り上げた＊ウィーンでは3日間通りで寝た＊そして最終的に自分らを自分らから外しとってしまったのだ＊文明とは何ぞや＊人が自分に琺瑯を塗り、シラミを恐れ始めることだ＊家族の絆とは何ぞや＊人が絹の帯のようなものでヘソの緒を伸ばすことだ＊礼拝とは何ぞや＊人が恐れなくとも済むように恐れ始めることだ＊僕らは足の裏に街道を釘付けした、そして太陽は宇宙で黄金色の何里もある脚で僕らに付いて来た＊像は蚤よりも大きくはないということを信じて欲しい＊赤は白よりは赤くはないのだ＊そして僕らはそれでも出発したのだ＊部屋学者よ、先へ進め、どうせ秤に掛ければ、損するのは僕らだ＊そしてそのとき目が開いたのだ＊そして僕らは鉱山地方の黒井戸よりも深くなったのだ＊そして僕らはさらに進んだ＊13人の天使が僕らの前を進んでいた＊やはり徒歩だった＊そして僕らの若さを歌ってくれた＊腋の下にきちんと躾られた蚤を飼っている僕たちはもう典型的な放浪者だった＊溝に落ちた果物が好物だった＊饐えた牛乳に＊ユダヤ人教区の賽銭箱＊そしてあっちこっちから兄弟達が僕らのところによって来た＊世界中の言葉をしゃべり、見事な煉瓦の肌をした顔をしていた＊誰も独特の匂いを放っていた＊何人かは長旅で痩せ細っていた、何人かはまだ母親の乳が口元から乾いてはいなかった＊僕らの足元の道は白い羽根布団を被っていた＊電信線は揺れて空にまじないを掛けていた＊夜には女達の股の間に花が咲くのを見た＊しかし僕らは草食で女嫌いだった＊そして僕らはパッサウを通り過ぎた＊アーヒェンを＊アントヴェルペンを＊木彫家は棒のように痩せ細り、頚鬚は真っ赤になった＊僕は詩とハジュラな森が頭の中で育ち始めた＊光の川をドブ鼠が2回渡った＊ズボンのボタンと鳥の卵で柄が描かれた大きな筏に乗って＊郵便局の私書箱には愛人からの手紙が何通も僕を待っていた＊でも夜が一番シラミが出るのが分かっていた＊そういう時には金の毛の羊達のように頭の中から湧き出てくる詩を僕は書いた＊これらが一番救いようのない動物だというのは間違いない＊でも誰かが耳の裏に足を突っ込めば＊カーテンはびっくりして降りてくる＊それが僕らの人生だ＊税関はそれぞれの駅で僕らの心臓にスタンプを押す＊そして僕らは夜明けに向かってただ泳ぐだけだ＊確かに誰もが甘草と澱粉糖で商売すればいいのにと思う＊自分らが生きている世界を分割し給え＊僕らは毎日そこから50キロずつ外に向かって進むのは簡単だ＊トンネルを超えて、山の尾根を超えて、沈黙したドイツの森を超えて＊畑では新鮮な肥やしの匂いがする＊ときどき山は振り返り、風が吹くと木は琴を奏でる＊木は基本的に身ごもった娘だ＊しかしよく見れば国境の石も身ごもった娘だ＊小

声でささやき合って、こう言っている：＊彼に捨てられたらあたし自殺する
わ＊昨日は一日中金糸でおしめの縁を縫っていたの＊天使ちゃんと名付けて、
ダイヤのさくらんぼを耳に付けるのよ＊あるいはこう言っているだけかもし
れない：＊男なんてみんなびっこをひいた犬よ＊山々はず一っと僕らに身をこ
ごめた＊大蛇は良心の呵責もなしに日を飲み込む＊最後には僕は詩人になる
＊鳴子をよく巻いて、一番の問題はどうせアンナ嬢の気まぐれ次第なのだ＊
＊昨日は独立ハンガリーに詩を2編送った＊そしてまたシュトゥットガルトあ
にシュタイエルンの落ちて戻った＊乞食の食卓に座ってジャム塗りパンを食べた＊そ
ミサをしていた＊星の下でフルートとクラリネットが金切り声を挙げているが見えた
＊黄色のガラス製のふくろうが若い母親の頭越しにおじぎをするのが見えた
＊おお、この世の罪を取り払う神の仔羊よ＊木彫家の中では再び半キリスト姓
が支度を始め、何が何でも喋りたがった＊黙っとれとシュタイエルンの百姓
が叫んだ＊心を僕らの鼻先にまで突きつけたのだ＊7本の錆びたナイフのような
刺されているのが分かるだろう＊これは俺の愛人の7つのウソなのだ、兄弟
達よ＊こっちの右側の縁の縁が見えるだろう？＊これが俺の主人が最後に
みついたやつだ、兄弟達よ＊俺は26歳なんだが、今まで朝露のように清潔
白に生きてきた＊冬は一日中庭を掃いてきたし、夏はふさふさとした穀物を
刈り取ってきた＊だけれども人の運なんちゅうもんは＊誰もが目を開いて壁
のダペスト=パリ=ベルリン=カムチャッカ=聖ペテルスブルク》＊木彫家はもう
後ろから世界が世の中がひっくり返るのを眺めているようなもんだ＊《ブ
酔っぱらっていて、目からは運河から流れ出るかのように悲しみが流れ出し
ていた＊叫び声はだんだんと、芯を消しに、角に近づいてきていた＊これから
らは正真のパンツのゴム紐の魔力だけを信じると誓い給え＊突然僕は言った＊僕は詩
＊そして僕の声が隣の庭からこっちの方に近づいてくるのが見えたのだ＊そして
人だ＊だから分かるんだ＊ランプは二倍入りだからよく燃えるのだ＊そして
油がいっぱい詰まっている＊僕はひどく落ち込んでいた。この貧しい人々には
何かをやりたかったのだ＊だが星はもう歩哨を交代していた＊神様＊南京虫の
今は当然口を開けて天井裏の梯子で眠りこけているだろう＊神様＊ほら、
赤い群れがが壁を伝わって下りてくるのだ＊僕らはそれでもパリの防火壁のの雄猫になるのに
人生ってなんて短いんだろう＊僕らはそれでも眠ってしまうのだ＊そうしてこそ縦は横に庭理
だ＊ねんねんころろよ、ねんころろ＊人は供らが出てきた＊僕といっしょにみんな
なるのだ＊そして逆にも＊天からの子が息子を寝かしつけている＊みんな
を超えよう＊川の向こう岸ではマリアが蛍光を発していた＊
性に閂をするのだ＊床の黄色い水溜まりでは僕の記憶が始めた＊マリアが息子に
隅ではユックサックが開き、気の狂ったように吠えたそして下にはほ1マルク
しているようにサック全体を抱いてあやしたそしてガラスのようになる＊花が咲く
半を持って召使いらがやって来た＊ため息がガラスの膝を僕に縛り付けてご覧
＊おや、君も来たのか＊僕と君＊君の上＊僕＊君の人生の花留めよ＊景樹よ＊採
＊君は女だなぁ＊銀の山椒魚よ＊鸚鵡よ＊僕の回している＊時計は星の檻から音
った星よ＊ああ、ああ＊誰もがガラスの栓を東に向けたのだ＊最初に聞いた＊俺
出てくる＊そうして像は長いコルクの鼻を東はその朝は起きられなかった＊俺
は周辺からの蓄音機の叫びだった＊木彫家はそのの女王は頭の上に大きなた
はくたばる、そう言った、俺はくたばると＊乞食の郭公が出てきて丁寧におじぎを
らいを載せて立っていた＊時計から骸骨頭

んんの目なっし頭、かい前＊っのか、ら心ど知星こにじ下てのだ葉く＊て、なだたが＊たっのなどん
みて君のはわそらだ山動のた洗岸だえかがほもるこ組信荷っ力の言はるっあのりっ梱タけおそをな飛
てっ＊君とた＊かんてた僕しを川ん生た金れ何あは教でのか殖るのらすかあももまはッ続を日袋とて
しうかだこ横だ窓うしま晩を頭をながっ純これにでて気ン向繁い僕奴発向＊るつしにラし目る手こけ
そまいまるてんが買そ＊毎旅は旗＊褌だばがい額中っ本ペにもて＊る出にだくくてりタ転びあのの向
＊ちなてすっる馬を＊だでで僕いい椋人けもつのの行とルち最せかめに屋のて行っ廻・回結て方目に
だっゃっになば仔着ナの違ちに黒なた詩割どに僕僕にるェたはまの認角酒むちにらのーにのし片つ方
んいじだ気にたの上ロた友っとはられどを姓れ＊もリなヴ夫兎込いと方居飲こりもらのーにのして三地
るていい蛇は重く毛のコロいいぼごれか枯ほ胸百流いでチにト人家れ恐るののをっなを僕＊な全そうて三
ばしなに缶身は脚僕、５動い人りそわ＊なののなれてかンン役＊紛があ屋神酎おに病にルとは＊だ幸他
たうてれのも俺白が、、も１ま＊はだれ僕一界らそ来何ア荷：に何で酒は焼が組淋うーこ遠いラ不が
くどしそーとも、戻＊ヒ人だ、＊誰いうだて聞溜だにの遅てギ世な＊らはでと君中は要居にのニ教でよマむ工なべな達
はも、でれをかー２んしたさそ＊２てたはしもそべもにっヒは２の民物奴が神、とのリ春園のゴ止大らザう鳥
俺もをかー２んしたさそ＊２てたはしもそべもにっヒは２の民物奴が神、とのリ春園のゴ止大らザう鳥
た、でれいコて叫をい出＊い＊ししかが術＊のど何だリ僕＊綿市穀い点ても涙頭チ売物タドば分、のがら
いだ＊群ないしはぎなはたなだそとの気手たこ獣もうー＊たは、をな止っとの１らの動ラーれがら、な
泣のまじも＊彫おい以始てのたそ岸うもてた義いのチのててっの情＊向そスとク乗た：レなれ＊らた
はたらいとだ木にてれりけたっ流のよはし＊主て児でたれし歌ミ＊るに＊リくル船ちだ＊さ入だなを
家っかなっの方しそ走かいかい何る僕わた粋っ孤こっ汚そはズいい陽くキなべの落んィとののう音
彫切原てみだだ、んん会＊誰っとえ悲をれがきをてのに人＊出異た。彼ネなて太咲で少ル街れ叫フ落門うそを
木横＊し、のそもて見てし洗があは交い国立のこ合に、ブはっはが屋はへの崩にンりはま＊上
だ、回２さ？灯あ噛る教だ、か度然は出そ岸と紙っこ前７だに特い君、ドで回ら花納にのリに天ィ切達しかの
んをぜり＊ソたポ込ナにはうに思たにこと分あら僕たイてっ民所無駆は合き運リヴ静21回フで人てい々
るをあばでんだ向２に僕い＊川の手か＊のはの人もて諸は駄け僕のの命ヒォか回フで人てい々
屋な灯だへくンきロ下家ようたい分らんがな彼＊いタとが市粉はをに百ぶの一ーはてしを鍵職れな家
ばた部＊だまのはテぞコに彫のようして自なちのばがいてキは転＊製の原朝に茅人ュリ閣けそ手＊はじう＊
たま＊？まい俺一の５ん木茨の殺せ,ぜきすれ僕なしス耳寝た、く野＊性＊善チ晩桜続ルいう檻たよ
くたよはた使＊ロで＊ペ来が馬沈かでなは出け＊え束うのでいり、碾てい知だのののてのの＊ー黒まのっめ
は見弟にっ召さスんたっ以鬚髭くめ流＊とれなだ見集い彼場てあもっいのののてしこ上たマのしらまと
俺を兄髪眠がのは込っいれ顎たどた急た人流くのもがと＊止しででながが僕る全そは砂びゴ達て僕しに
＊神、ので彼る々っ言があのいひはがい愛らしいに線うだ波を鶏れとるなすし＊彼＊延バ人しでて気
た死い、色中。い家突も道＊彼老＊に分が＊からな誰曲ろんし説るそ花ば弱発かただくタ職といしが
なだ黄のいてて僕らたで歳た方自蛙だ蹴汚らはでなたろ演あ＊はた貧出しのっの高ラ＊こせく誰

の彼ュただギ党フ世油のたーてる女上組をに：ーェい志イ乗いれよ肌会まにのた＊の吐ト問アくだよが
たてリいのル会いは＊髭れヨいく志の同壁斉ルツて同ダに若入えに集、うなっよをス疑シ咲の達上
っしブついベ社しに人りらーつて同ら協た一てンっ＊の船はにさ内人がよ咸ぎ地よう唾アはロはも子え
まそでいないて新池アぼけュをし＊僕＊れてしレかた人が今手頭いアたの親ち土いに＊か＊花な息燃
し＊歩追しまっでりシんつニ肘出るてる折しそィ分い愛達＊をいなシい鳩といた救アだのいだうなが
てた徒にはう切前まロょめはにびいっあのそ＊フとてに魚たのらかロてい達食れのジのるなまよ幸頭
きっにらりたて、横の溜のし痛で赤飛で持つ歯＊ドい＊っこ椒いもくづのっ赤者をわ前アくないはの不で
てだう僕たてをジの眼＊で肩っらんをつが倒ンかな待こ山ての穢気ュ喋はた頭呪おの行に違で畑た下
れのよがしい屋レこ碧族国の真か叫］り犬打カるはな今をっく真はジが手れの、中て婦に野い似の
忘たの時とつ部はるた民てかが駅ら一ま＊治ルえくんしり眠多写界一］てか目よば、のっ娼む瞹なに子
きいかめ、落にが達めし岳し人みのかヒ集る政マこ遠みも辺でとが世サ志し憑番アれら登の生のいら帽
置泣ためをルデ者集約山そ何しこ部一がい頭サ聞はは、の中ん僕、ッ同志］そに７シけ僕にクをアて僕の
をてっらブル導を婚た＊＊憎こ蹴部コアて寡＊が時らあ、灯のなもり、パ［＝同志］。そに７シけ僕にクをアて僕の
鍵い合き僕ーェ指のとせ達たはが心［＝コアて寡＊が時らあ、灯のなもり、パッ［＝同志］。そに７シけ僕にクをアて僕の
の嘆にあにテヴなも命痩類いらいの　タ配うルの神＊＊のま間もてチチいたキム、見パ人ブスロさパ老
教をぎを対いル名る革＊親てか勢ワプ　レを言ホ鐘がだて中溜時＊じプシてフリおらロだルキだはロら
宗れ剥て絶長デ有ゆ＊人なっ目のクーロ券うクのものっん水１か閉にリいエタ＊僕ーたテな＊アー僕
いそい全はのンのらたン的まの大スプ場こッ舎誰な立真いはうて中一咲トンるをヨがペただシヨて
しに追＊彼ルァ他あいセ狂集者最モいは入がト庁＊感＊＊赤人ろっ夜ァ花スメい子＊け聖らのロ＊し
新うはた＊プヴ＊＊てイ熱にの界は黒ででかス市る敏てらう＊だだ真ヴがドチて息かだかあるがよそ
によらったポ＊たたしロのこ他世線は前プ誰＊のいもったもたのつ＊タ炎はンしたうらのにいだ達＊
室の僕だい・た見い会プィこ＊＊ディてたえ、話達の一＊スンてり立きはっもいだのはらセとれろ僕る日て＊弟！
衣供、のてドいをでに＊ディてたえ、電仕館ルうリェっよ＊で人かるはの髪ら僕のうらだもなるっだ兄れ！
更子てたっ・てのん堂人ル全いま＊給画グ歌フヒ眠計れがイしき人う金かに部よけるでにあもの＊く
はにっしかンしく遊一ダバがてたる＊映のにィンが霞くとタ美でもまのロか内し付えれ娘かごる！て
人日塗発分ゾら行でがンリ中し見れれ＊つうティュ鳩地てこキにがどし人の確の壊の見それのつ身いれけ
イのを出はメゆてプダラガ違夜＊荒くくずよ＊ミでは鳥るスうとれて１彼＊ら破印にて昼いをでく助
タ初ンてにはくっンラオ＊た徹たきていい人のリ＊肩肌弾げ＊よこけっ＊＊た分をで誰しン＊春いて、
キ最リけらにを入ラサる人めがい吹いて10婆パ山ののをなたのる＊去たたい自て星がそパいいなけれ
スてセ向僕晩コにトのすー詰棲てが弾けが老＊鉱達者ノつしグならりしたっては全のみ＊のな赤き助く
＊しワにとはバ局・間のリい天し嵐を抜間りマの徒信アを回ッになら走出だっらて前しるンがのでばて
くそにルだらタ務ス人いガ食摩出＊ノけ人上一方使狂ピ目周ドちたを供回僕しお苦け一地命がらけ
行＊耳セけ僕の事ンの匂ン、のをだア駆のけロ地は＊、のてル持っ上顔子び＊そしい駆ハ余革とな助
でだはッだ＊ーのラ界のハリク顔のピを合駆＊ルでた女ヤっブ金かのにだ飛だ＊もなきラのはこ＊＊

イオリンのヴィルトゥオーソなのだそうだ＊愛人が９人いる、普仏戦争で軍馬だった神経質なフランス娘達だ＊自分のノートを見てみる＊今まで3004点のキリストの絵を見ている＊鳥の巣で９種類の卵を見つけている＊リュッティヒでは２頭の牛を追った＊つまりパリから300キロの所にいたのだ＊そして僕らの頭の上では鸚鵡が松葉杖をついて歩いていた＊おお、《パリ》よ！＊《パリ》よ！＊アディ・エンドレ［ヨージェフ・アティッラと並んでハンガリーを代表する詩人］はお前を裸で見ている。そしてお前の血にまみれた廃虚の上で同時主義の詩人ギヨーム・アポリネールが生まれたのだ＊僕らは巡礼の匂いがしているのがはっきりと分かった＊そして僕らは行った＊毎日60～70キロの道のりを＊そして鉄塔の影に向かって進んだ＊足のまめを買ったばかりの針で破れた人々に訴えた＊手入れの行き届いたまめはいらんかね＊細いスンにかしたあの後ではよく似ているルソー・ビールのおかげでそうなのかもしれない＊僕らはふくれあがった涙腺を何日間も泊まるむこでもあるやペンこんなのにスヤスヤと寝ている＊《パリ》よ、ああ、《パリ》よ、そこういうが病く比めヴイだ＊あ＊２×＝４＊出一い粉ですべてを持ってしまった＊いい指さ》＊そだのゴルの僧リげ自殺かから離れこ水＊蛎牡や茨にだらもが女の僕つ女の僕ら立ってきはとむこと進

イオリンのヴィルトゥオーソなのだそうだ＊愛人が９人いる、普仏戦争で軍馬だった神経質なフランス娘達だ＊自分のノートを見てみる＊今まで3004点のキリストの絵を見ている＊鳥の巣で９種類の卵を見つけている＊リュッティヒでは２頭の牛を追った＊つまりパリから300キロの所にいたのだ＊そして僕らの頭の上では鸚鵡が松葉杖をついて歩いていた＊おお、《パリ》よ！＊《パリ》よ！＊アディ・エンドレ［ヨージェフ・アティッラと並んでハンガリーを代表する詩人］はお前を裸で見ている。そしてお前の血にまみれた廃虚の上で同時主義の詩人ギヨーム・アポリネールが生まれたのだ＊僕らは巡礼の匂いがしているのがはっきりと分かった＊そして僕らは行った＊毎日60～70キロの道のりを＊そして鉄塔の影に向かって進んだ＊足のまめを買ったばかりの針で破れた人々に訴えた＊手入れの行き届いたまめはいらんかね＊細いスンにかしたあの後ではよく似ているルソー・ビールのおかげでそうなのかもしれない＊僕らはふくれあがった涙腺を何日間も泊まるむこでもあるやペンこんなのにスヤスヤと寝ている＊《パリ》よ、ああ、《パリ》よ、そこういうが病く比めヴイだ＊あ＊２×＝４＊出一い粉ですべてを持ってしまった＊いい指さ》＊そだのゴルの僧リげ自殺かから離れこ水＊蛎牡や茨にだらもが女の僕つ女の僕ら立ってきはとむこと進

ヴィオ！万歳！＊そのとき僕の背中から痼が１つとれたのだった＊窓ではロシアの花が咲いた＊後に扇動者と警察のスパイになったスキタイ人は＊そのロシア人の外套に接吻したのだった＊私は子供のように無垢です＊彼は言った。もし私が梅毒にかかってさえいなければ皇帝を殺しにチャルスコイェ・セロに赴くのですがと＊この夜は僕らはパーリンカ［ハンガリーの強い蒸留酒］を口にしなかった＊足を荒い恋愛のことは考えなかった＊その後反乱の罪で12年を言い渡されたある人の印刷屋はメイドのカードから幸運を引き当てた＊そして小声でしかも遠くに届くように僕らは歌った＊とうとうだ、そう、とうとう＊時は来たりて、僕らは接ぎ木のように完全なものになった＊三月者［1848年のハンガリーの三月革命の参加者］の金の旗の群れがつのった僕らの上ではためいているように感じたのだ＊白鳥はブランコに乗って２つのテーブルに参加しようとはいない街の声で笑っていた＊エドゥアール広場で貧しい者達のまだ夜は明けきってはいなかった＊汚らしい街灯が僕らのこをした＊けれども夜明けに憲兵隊がやって来た＊立っている舎の金飾りが青い光の中をはまだ本当にパリで寝ているとは信じきっていた＊市庁舎の鉄枠のできて笑っていた＊そして僕たちは手を鎖に繋がれて降りしきる青い光の中を進んで行った＊急な階段を下りて行った＊ジャガイモ焼きの鉄枠のできて行く竈の前を、酒場の汚水の中を＊魚屋の夜明けの生臭い匂いの中を＊秩序に捕まえられた惨めな放浪者達、そして彼らの中では神は死にかかっていた＊リュ・ムフェターユでは娼婦達と出合った＊僕は幸せだった＊彼女らが夜明けにはこんなに美しいという事がとても嬉しかった＊斜めの凪の中、彼女らの顔にまげも斜めになっていた＊太陽がダイヤモンドのベールの後ろ側から防火壁の上から彼女らをのぞいている＊僕らは聖者のように一晩中起きていた＊そして今は彼らのタバコがうらやましくてよだれを垂らしているのだ＊背中がかけたらなぁと、ついこの前までチリに救世主として行くつもりだったスキタイ人がうめいた＊誰かが白いベッドカバーをバルコニーで振っているマリネッティの未来派の神のように炎を食って生きていた金髪の子供のロシア人のことを考えていた＊彼は息子が母親を愛するよりもロシアを愛していた＊次には彼はベルギーの国境から追い出され、ある青い朝にクレムリンの前で縛り首になるのだ＊だから、助けてくれ！＊兄弟達よ＊ヨーロッパの僕らに似た不幸な息子達よ＊助けてくれ、助けてくれ！＊僕は単純な詩人にすぎない、やいばがあるのは僕の声だけだ＊紙の刀でトゥマロムの魔女を突き刺したところで何になろう＊僕らは12日間ネズミの匂いのする留置場にいた＊１つの部屋に105人が押し込められていた＊昼も夜も＊夜も昼も＊夜は街道のことを考えシラミを殺した＊朝はお湯が与えられ、昼には冷めた粥が出た。そして一日中顎演壇の上に座っている髪をはやした守衛の後をついて理解できないベルギー語の祈りを唱えさせられていた＊何かの偶像のようだった＊それから深緑の貨車に乗せられてフランスの国境まで連れて行かれた＊神様、やっぱり！＊神様＊パリがやって来る＊その町は歌のような奇跡のことばかりを聞かされていた＊そして僕はまだ知らないのだ＊フランスの国章には赤い雄鶏が立っていることは知っていた＊フランスの地は娘達と芸術に溢れているとも知っていた＊ソラの百姓達は銀のギターを持って夜明けを泳いでいた＊セーヌ川は青い死体を芝生の床に寝かせたのだ＊スキタイ人はハンガリー人の訓導のドゥナイェツのことを話した＊今はシャノアールでバ

がでチェスがショパストうに着のくそシが
はかったペストのようを２も行ったッル
太股はなかったボンをうにいけた＊ワール
の豚の太股はなかったボンをうにいけた＊ワール
れた豚の太股はなかったボンをうにいけた＊ワール
た＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
も幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
背中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
の背中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
らの背中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
分らの背中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
自分らの背中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
で自分らの背中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
鏡で自分らの背中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
の鏡で自分らの背中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
氏の鏡で自分らの背中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
マン氏の鏡で自分らの背中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
ドマン氏の鏡で自分らの背中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが
ルドマン氏の鏡で自分らの背中を眺め、とても幸せだった＊もしチェスがでチェスがショパストうに着のくそシが

［深谷　志寿（フカヤ シトシ）訳］

PETŐFI IRODALMI MÚZEUM
Fmy 8092